



### 御指導いただいた先生方

国立大学法人 東京学芸大学 教職大学院 准教授 増田 謙太郎 先生  
 調布市立飛田給小学校長 山中 ともえ 先生

### 職員

校長	佐藤 政彦	数学	経営	主幹教諭	是枝 彌生	特支	通級教室
副校長	工藤 憲治	国語	経営	主任教諭	森田 正	特支	通級教室
教諭	河野 優子	音楽	1-A	教諭	秋廣 玲子	特支	通級教室
教諭	今堀 祐輔	社会	1-B	教諭	岸谷 紀久	特支	通級教室
教諭	角能 大介	数学	1-C	教諭	関 智恵	特支	通級教室
主幹教諭	大賀 威義	数学	1年	教諭	長田 康平	特支	通級教室
主任教諭	石井 雅子	国語	1年	教諭	理寛寺 拓希	特支	通級教室
教諭	齊藤 宏次朗	英語	1年	主幹養護教諭	行富 歩	養護	
非常勤教員	小原 俊昭	技術	1年	特支専門員	林 美樹		通級教室
主任教諭	久下 章宏	保健体育	2-A	AET	Finnian Wittman	英語	
教諭	堀込 智也	社会	2-B	都事務	湯浅 清美	事務	
教諭	田畑 みずほ	英語	2-C	市事務	富澤 明美	事務	
主任教諭	市村 由美子	数学	2年	市技能主事	濱崎 徳夫	用務	
教諭	寺澤 寛太	美術	2年	市技能主事補助	栗原 勇三郎	用務	
教諭	豊田 雄輝	理科	2年	市栄養士	辻 万紀子	栄養士	
教諭(産休)	山下 由有	理科	2年	市司書	大江 和美	司書	
主任教諭	津口 慎	数学	3-A	都SC	松丸 未来	SC	
主任教諭	守谷 幸子	保健体育	3-B	市SC	青木 千旺	SC	
主任教諭	外山 弓子	英語	3年	市SS	石黒 琢也	SS	
教諭	原 颯一	理科	3年	市SSS	飯野 雅人	SSS	
非常勤教員	藤崎 ひろみ	国語	3年				

### 研究を終えて

校長 佐藤 政彦

本校では、令和2・3年度調布市教育委員会研究推進校の指定を受け「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の推進」の研究主題のもと、研究を進めてまいりました。

本研究では、インクルーシブ教育の視点にたち「各教科の授業づくり (ICT機器の活用, UD)」, 「学級づくり (共生社会の礎)」, 「環境づくり (合理的配慮と支援体制の工夫)」の3分科会を組織し、仮説に基づいた実践、生徒アンケートや観察による検証を行ってまいりました。

2年間の研究を終え、授業の構造化・個別最適な学び・協働的な学び等により、生徒一人一人に“心理的安全性”を感得させることが、共生社会のすばらしさを実感できる学校づくりへと繋がることを検証できました。本研究を更に深化させるためにも、今後も継続して研究・研修を重ね、研究の成果をより確かなものにしてまいります。

本校の研究を推進するにあたり、ご指導・ご助言をいただきました講師の先生方をはじめ、調布市教育委員会、関係各機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

## 令和2・3年度 調布市教育委員会研究推進校 研究発表会

### 研究主題

# 共生社会の形成に向けた インクルーシブ教育の推進



令和4年1月28日(金)



調布市立第八中学校

# 主題設定の理由

インクルーシブ教育という理念が中央教育審議会より発信され、学校教育に浸透して9年が経過した。社会的にも発達障害への理解が深まり、合理的配慮が進められ、必要な支援を受けられる生徒が増えてきた。本研究が始まる3年前に示された新学習指導要領総則には「特別な配慮を必要とする生徒への指導」、「各教科での指導方法の工夫」が記載され、学校教育全般において支援が求められるようになった。

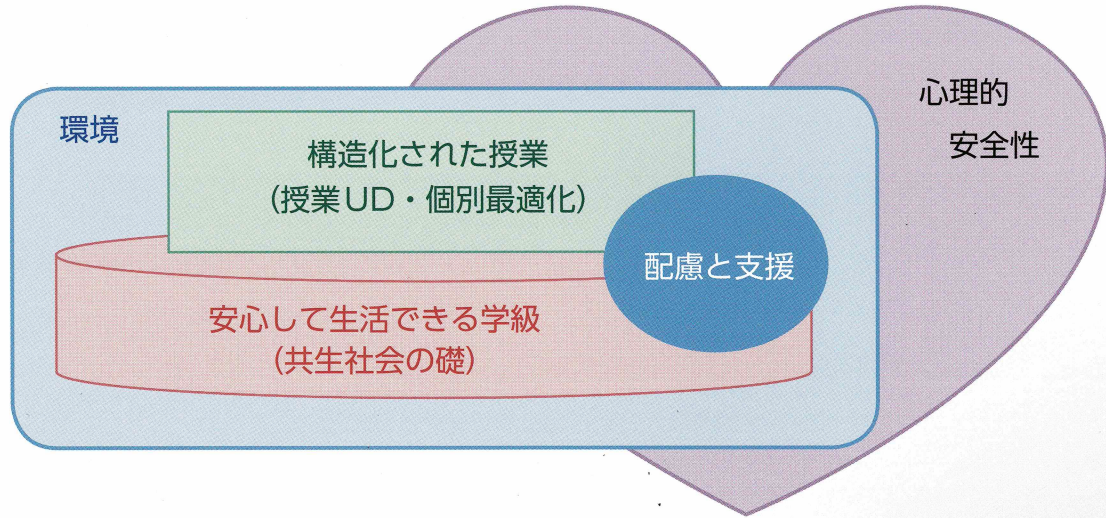
本校は、これまで小規模校ならではのきめ細かい指導として支援に取り組んできた実績があり、特別支援教室拠点校の設置(平成31年4月)によりその体制はさらに拡充していった。

それらの特色を踏まえ、特別な配慮を必要とする生徒に向けた①構造化された授業づくり[授業のユニバーサルデザイン(以下「授業UD」という。)]・個別最適化と、配慮を必要とする生徒が安心して生活できる②学級づくり[共生社会の礎]の双方向からアプローチを行い、心理的安全性の確保③環境づくりによる、生徒全体の学校生活への満足度を向上させることを目的に本研究に取り組むこととした。

また、研究1年次末の令和3年1月、調布市では生徒1人に1台の端末(Chromebook)が導入されたことを受け、積極的に端末を授業で活用していくとともに、「個別最適化された学びと協働的な学び」をキーワードに、「授業の構造化による心理的安全性の確保」を研究の中心とすることとなった。

## 研究の柱

- 1 授業づくり (授業UD・個別最適化)
- 2 学級づくり (共生社会の礎)
- 3 環境づくり (合理的配慮と支援体制の工夫)



# 研究成果と課題

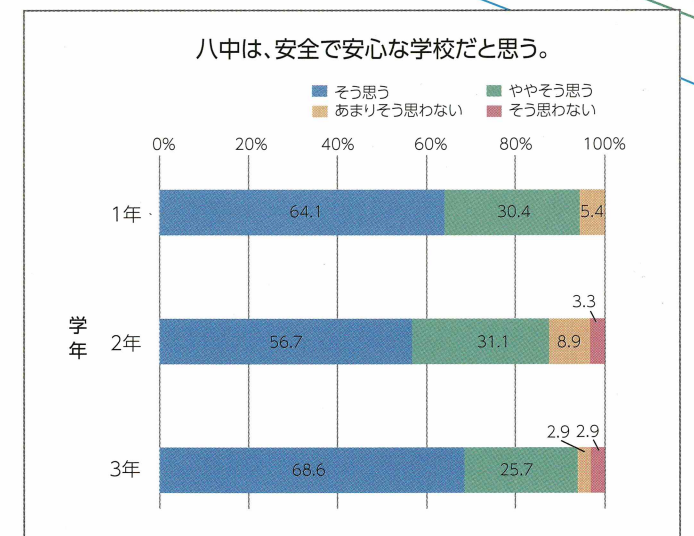
## 成果

2年間の研究により特別支援教育に対する知識とスキルが向上し授業力を向上させることができた。その結果、支援が必要な生徒のみならず生徒全体がより安心して生活し、学習できるようになった。このことは学校評価アンケートにより明らかになった。

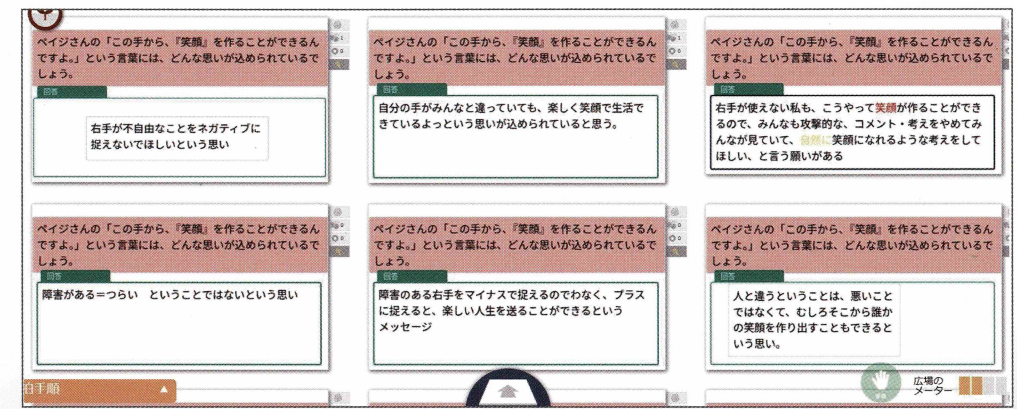
また、研究の2年間は新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けた2年間であったが、1人1台のタブレット端末(Chromebook)が導入されたことで支援の必要な生徒にとって状況は好転した。

### 【Chromebookの有用性】

- ①書字が苦手な生徒にとっての文字記入
- ②文章を作ることが苦手な生徒の作文作成
- ③人前で話すことが苦手な生徒の意見表出
- ④読字が苦手な生徒の読み上げ機能の使用
- ⑤ミライシードの個別最適化された課題
- ⑥学習計画表の作成



Chromebookの積極的な活用によりミライシードの使用率は市内中学校の中でも高かった。また、いろいろな教科や活動で使用され、新しい八中のユニバーサルデザインともいえる授業形態が生まれ、これまで以上に生徒一人一人が輝く場面が多く見られた。



ムーブノートの画面

## 今後の課題

- 学習の一層の個別最適化について各教科で進めていくこと
- 学習内容の高度化に伴う不応への対応や課題量の調整と評価に関する合理的配慮の検討
- Q-Uの結果に基づく個別支援の方法やエンカウンター等のプログラム実践の研究
- 支援の必要な生徒に対する具体的な手立ての共有やスクールサポーター等の支援を共有する手立て



道徳講演会より

## まとめ

支援が必要な思春期の中学生にとって、「みんなと違うこと」を受け入れるのは難しいことが多い。そのような生徒にとって、まずは「できないこと」を隠さず、安心していられる【心理的安全性】が学校生活の基盤に必要である。その上に「必要な支援や配慮を求められること」ができなければ、彼らは学習に取り残されてしまうことにつながる。本研究では、生徒が安心して生活できる学級で、支援や配慮を受けながら学び喜びに触れ、成長していく姿を見ることができた。また、互いに支え合い、生きる喜びを感じることで、一人一人が輝き、他者を思いやる共生社会の礎が形成されていく様子が実感できた。

この研究はまだ道半ばであるが、私たちの踏み出した一歩から、この取組が広がっていくことを切に願う。

### ◆ 教育長あいさつ ◆

調布市教育委員会教育長 大和田 正治

この度、調布市立第八中学校は、令和2・3年度調布市教育委員会研究推進校として「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の推進～一人一人が輝く授業実践を通して～」を研究主題として研究を進め、ここにその成果を発表されますことを、心から感謝申し上げます。

貴校は、教育目標の「思いやりのある心豊かな生徒」の育成を達成するため、Q-Uアンケートを基にしたエンカウターの活動を通して、共生社会の礎ともいえる学級経営の充実を図ってこられました。また、1人1台タブレット端末を活用した授業の実践を行い、生徒の思考の可視化・協働化を図ることで、一人一人の生徒に配慮するインクルーシブ教育の視点から学習指導要領の着実な実施を進めてきました。このような個々の生徒の多様な実態を踏まえた研究は、まさに喫緊の教育課題に向き合い、時宜にかなった取組です。

本研究の成果が、市内はもとより、多くの学校において、子どもたちの学びの質の向上につながっていくことを願っております。

# 第1分科会「授業づくり」(授業UD・個別最適化)

## I 研究仮説

授業を構造化すると、生徒は心理的安全性をもち、主体的に学習に取り組むだろう。

## II 『授業の構造化による心理的安全性の確保』への取組

### (1) 授業のユニバーサルデザイン化(授業UD)

#### ① 授業全体の見通しをもたせる工夫

【例】目標の提示→授業の流れの確認→学習活動(自力解決・話し合い活動・全体考察等)→振り返り

【例】のように、授業の流れの基本形を示し、それに則った授業を展開する。毎授業が構造化されることで、生徒は授業全体の見通しをもちやすくなり、心理的安全性を得ることができる。ただし、教科や教材によっては、【例】とは違う方法での構造化を図る必要がある。

#### ② 視覚的効果への工夫

ICTを使用したり、掲示物を使用したりする際、視覚に配慮した色を使用する。

### (2) 個別最適化

次の2点を課題と捉え、授業づくりを行った。

#### ① 話し合い活動を充実させるための工夫(話し合いのルール・班分け等)

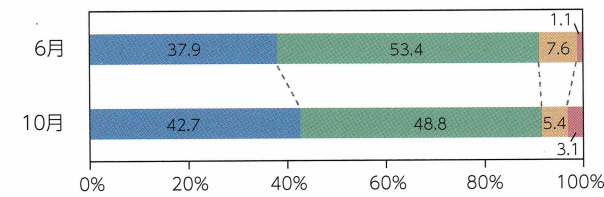
#### ② ICT等、考えを表現するツールの工夫(Google workspace for education・ミライシード等)



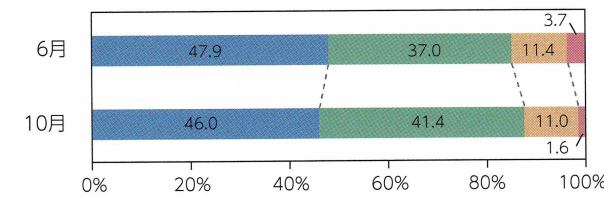
## III 検証結果・成果と課題

【アンケート結果】 ■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ 思わない

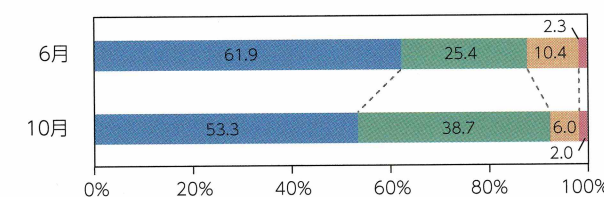
質問1 授業の始めには、先生の説明を聞いて1時間の流れをイメージすることができる。



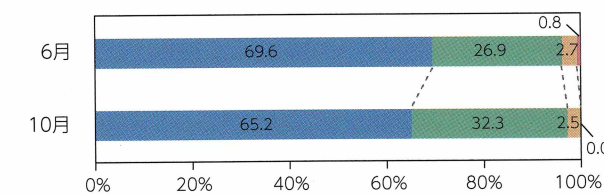
質問3 話し合い活動などの場面では、自分の意見を表現することができる。



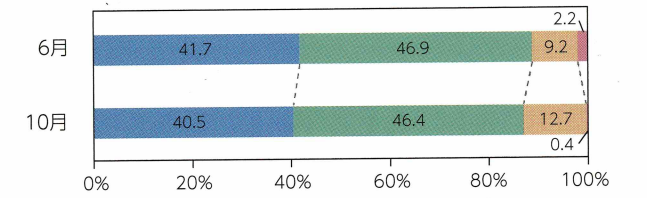
質問5 プリントやプロジェクター、黒板の文字は見やすい。



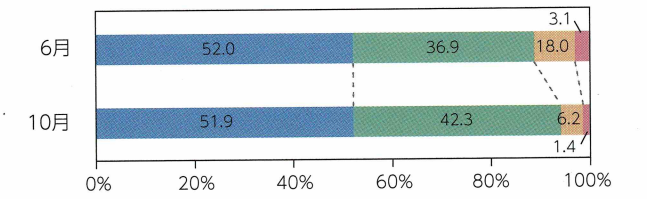
質問7 授業中、写真や図等によって、説明や文章の内容が分かりやすくなる。



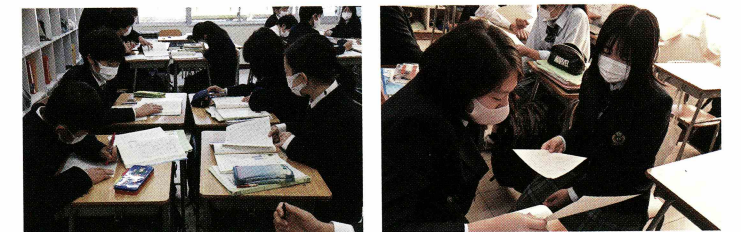
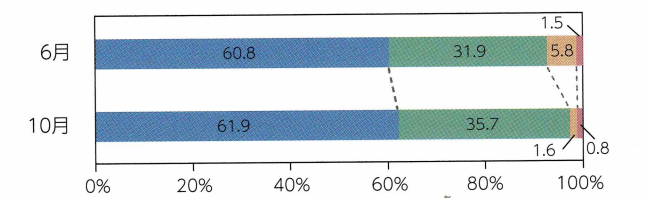
質問2 授業でわからない・困った時に、自分で解決しようとしている。



質問4 話し合い活動を通じて、分からないことが分かるようになることがある。



質問6 プリントやプロジェクター、黒板の色使いは見やすい。



生徒の反応(話し合い活動)▶▶

### 【成果】

特に成果として表れたのは【質問4】である。話し合い活動を様々な教科に取り入れることによって、生徒同士での学び合いが深まったことが【質問4】の成果に表れている。人の考えを聞くことが、個別最適化のための1つのツールとなる。

【質問5】～【質問7】は、視覚的効果に関わる部分である。校内研修等で、教材・ICT・黒板の色を学校全体として共通理解することで、授業の内容に対する成果が上がる。

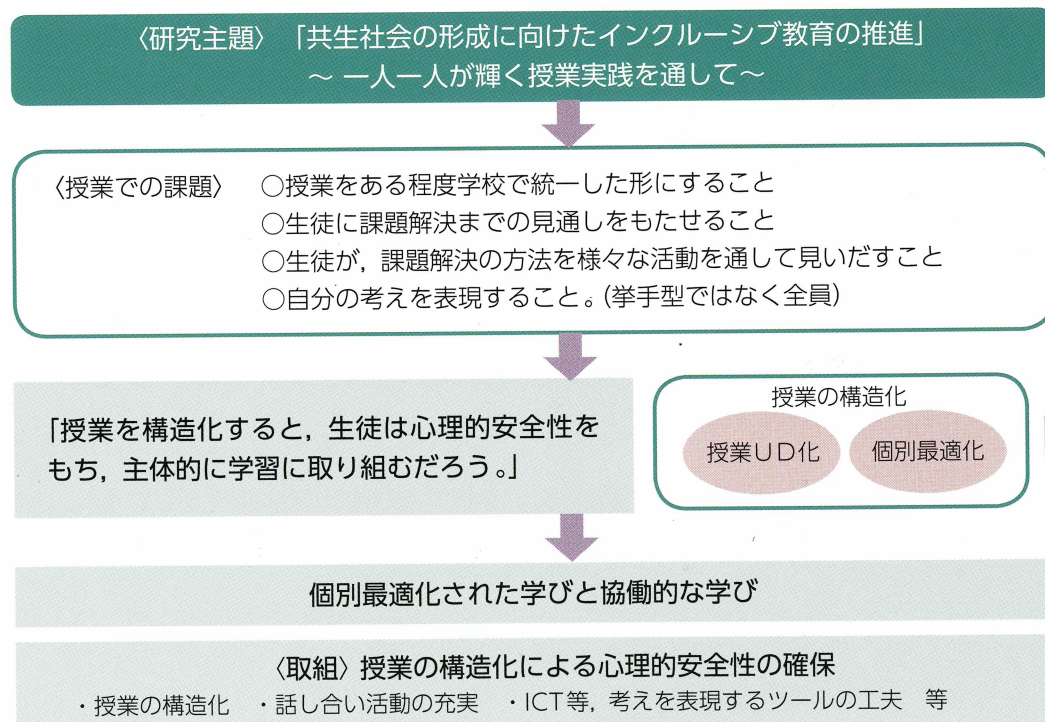
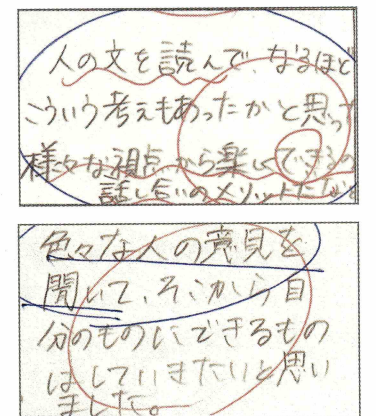
【質問4】～【質問7】の項目では、6月～10月という短い期間内でも成果が表れることが分かった。

### 【課題】

【質問1・2】では、大きな変容が見られなかったが、個別最適化された学びを目指すための課題として、

- ・ 授業全体の見通しをもたせること
- ・ 授業の中で自力解決のための自分に合った方法を模索し、自分の考えを表現できるようになることが挙げられる。

そのためには、学校全体で共通理解した取組をより長い期間で実践していく必要がある。



### (3) 研究仮説の検証

令和3年6月と10月に、授業に関するアンケートを実施し、生徒の変容を見取ることで検証する。

# 第2分科会「学級づくり」(共生社会の礎)

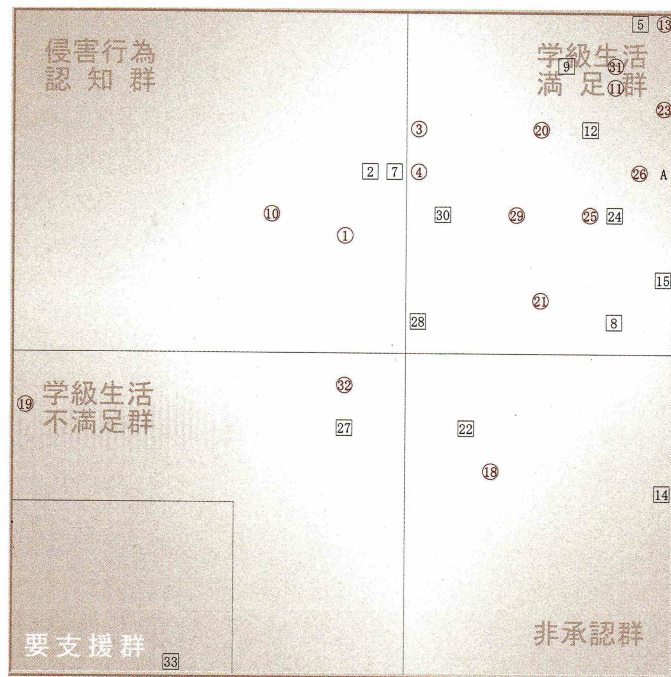
## I 研究仮説

「心理的安全性」に基づく協働的な学習の場をつくり出すことで、支援が必要な生徒の「対人関係のリスク」が減り、学校生活に対する意欲も向上するだろう。

## II 取組

総合的な学習の時間の取組として、Q-U\*テストの結果に合わせたグループエンカウターの実施

※Q-U: いごちのよい学級づくりと友達づくりのためのアンケート



- 5月 第1回Q-Uテスト
- 6月 グループエンカウター① 「体育祭いい所探し」
- 7月 グループエンカウター② 「気になる自画像」
- 9月 グループエンカウター③ 「4つの窓」
- 10月 グループエンカウター④  
1-C「共同絵画」 2-A「サイコロトーク」  
グループエンカウター⑤  
「合唱コンクールいい所探し」
- 11月 第2回Q-Uテスト

## III 成果と課題

### [成果]

Q-Uテストによって学級の課題を明確にし、クラスの課題に沿ったグループエンカウターの授業を実施することで「心理的安全性」が向上した。

### [課題]

- ・Q-Uテストの結果、クラスごとの課題に対して有効なグループエンカウターについての知識や研修が必要である。
- ・Q-Uテストを受けて、学級集団だけでなく、支援を必要とする生徒の周りの生徒など、より細かい小集団に対するアプローチを検討する必要がある。

「体育祭いい所探し」



「気になる自画像」



「4つの窓」



「共同絵画」



「サイコロトーク」



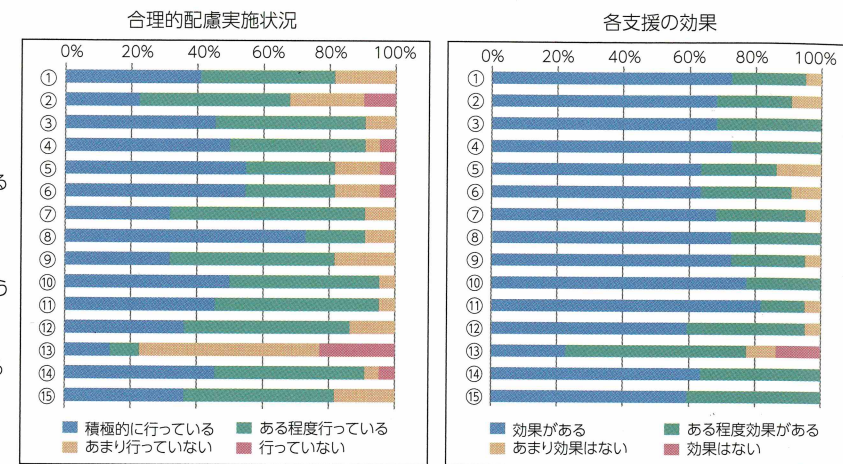
# 第3分科会「環境づくり」(合理的配慮と支援体制の工夫)

## I 研究仮説

合理的配慮や環境調整をすることで、発達の偏りがある生徒が学習しやすくなり、授業参加がスムーズになり学校生活を送りやすくなるだろう。

〈合理的配慮について実施状況調査 まとめ〉

- ① 特性ごとに支援方法を変える
- ② 急な予定変更時、口頭だけでなく文字で示す
- ③ 授業に集中できるよう教室環境の配慮
- ④ クラス・班編成時の配慮
- ⑤ 授業開始時、授業の進め方について全体的な見通しを掲示する
- ⑥ タイマーを使い作業の区切りが分かるようにする
- ⑦ 指示伝達時、口頭だけでなく板書するようにしている
- ⑧ 一日の中で生徒をほめる場面づくりを行う
- ⑨ 行動観察や学力・知能検査の結果を参考にして授業づくりを行う
- ⑩ 指示理解の弱い生徒には個別の説明を加える
- ⑪ 成長している点を本人に伝えるようにする
- ⑫ 学校生活の中で好きになれるものを一緒に探したり掲示したりする
- ⑬ ヘルプカードの活用
- ⑭ 板書の大きさや色使いに配慮
- ⑮ クールダウンの工夫



## II 特性に応じた支援

### 支援① 〈整理整頓が苦手な生徒〉

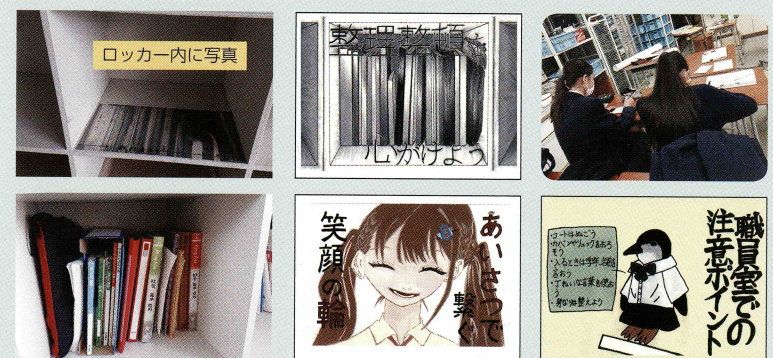
BOXを使って授業準備をサポート

- ① ブルーBOXに一日に使う教材を朝のうちに入れる
  - ② 使い終わったら、ロッカーに戻す
  - ③ 出来た日をカレンダーでチェック
- (できなかった日に曜日・気候などが関連しないか検討し、アプローチを変えてみる等試行錯誤で実施)



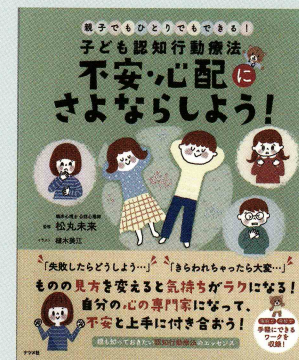
### 支援② 〈視覚的な支援が必要な生徒〉

掲示物を作成しサポート



### 支援③ 〈不安が強い生徒〉

「お守り」をもたせて心の安定をはかる



※本校スクールカウンセラー 松丸未来先生の監修著書 「不安・心配にさよならしよう」(ナツメ社)より

### 支援④ 〈見通しを立てることが苦手な生徒〉

Chromebookを使って学習計画表を作成

学習記録表		科目				社会		音楽	
課題一覧	12	11	10	9	12	5	0	0	0
実施した課題	9	4	0	3	0	0	0	0	0

科目	英語		国語		数学		理科		社会		音楽	
	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
英語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
国語	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
数学	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
理科	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
社会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
音楽	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

▼TO DO リストで見通しをもたせる

### To Do リスト

- 8:25までに教室に入る
- 朝読書の本/健康観察表/提出物を机の上に置く
- 朝学活で配布されたものをファイルに入れる
- 授業開始3分前に準備を済ませる
- 着替え、移動時は早めに行動する
- 終学活前に連絡帳を記入する
- 終学活で配布されたものをファイルに入れる
- 配布物を保護者に渡す
- 寝る前に明日の準備を済ます

## III 成果と課題

### [成果]

- ・教員の実施状況を調査し、校内での合理的配慮の実施状況や必要性、実際の実施の様子が見えてきた。
- ・授業準備や整理整頓などの支援を行うことで、授業への参加がスムーズになり、生徒の学び意欲が向上した。

### [課題]

- ・大人の援助があり継続してできている状態であり、生徒の自立に向けた支援の工夫が必要になってくる。
- ・合理的配慮の取組事例を教員間で共有することや、さらに個や状況に合った支援を考え、実践していくこと。